

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 愛媛県 】

学校名【 愛媛県立八幡浜工業高等学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	全校生徒対象（209名） 1年生（70名） 2年生（59名） 3年生（80名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 保健体育 ） ② 行事名（ 工業祭（一般でいう文化祭と同様） ） ③ その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○パラスポーツ体験を通して、障がい者スポーツに対する理解を深め、人権意識を高める。 ○聖火ランナー経験者の講演会を契機に、スポーツの持つ多様性への理解やこれからの自分の生き方を考える機会とする。
5 取組内容	<p>(1) 保健体育の授業でパラスポーツ体験 1年生、2年生の体育の授業においてボッチャ・ゴールボールのパラスポーツを体験した。</p>  <p>(2) 工業祭（文化祭） ①教室展示 パラスポーツの紹介 ボッチャ・ゴールボールについて 愛媛県のパラスポーツ選手紹介等</p> 

- ② ボッチャ体験コーナー
1年電気技術科の教室を会場に実施
工業祭の来場者に体験してもらう
本校の生徒も多くが体験



- ③ 講演会
本校の卒業生で、1964年の
東京オリンピックで聖火ランナー
をされた小川栄貳氏による講演

※当時の聖火トーチやユニフォーム
を展示



6 主な成果

○前回の1964年東京オリンピックで聖火ランナーを努められた卒業生の講演会を企画したことで、生徒たちはオリンピックに興味や関心が持てた。また、講演の内容から将来工業人としての生き方を考えるきっかけとなった。
○ボッチャ・ゴールボールの体験授業をしたことで、工業祭（文化祭）において生徒自ら進んでパラスポーツの内容や魅力について展示や体験コーナー等を行ってくれたことは、障がい者スポーツの理解へと発展するものと思われる。実施後の感想でも「楽しかった。また、他のパラスポーツも体験してみたい。」「クラスマッチに取り入れてはどうか。」などの反省や意見もあり活発な活動となった。

7 実践において工夫した点
（事業の特色）

○愛媛県オリパラ・マスターズ推進室の協力を得て、ボッチャ・ゴールボールを貸し出しただき障がい者スポーツを実際に体験することができた。28～40人の少人数の講座で実施することで、時間的にも多くの体験ができた。
○工業祭（文化祭）で、1クラスがパラスポーツをテーマにブースを設け、自分たちで調べた内容を展示したり、来場者や生徒たちにも実際体験してもらったりすることができた。

8 主な課題等

○オリンピック・パラリンピックについて事前学習を実施した上で、パラスポーツ体験学習を実施した。事前学習の成果があり、全員がとても楽しんでパラスポーツ体験に取り組めた。
○パラスポーツ体験については、パラスポーツ用具の数等にもよるが、少人数での実施が効果的であると思われる。

9 来年度以降の実施予定

来年度は、多くのパラスポーツを見学したり、体験したりする機会を増やしたい。実際に近隣の特別支援学校とのボッチャ等のスポーツ交流を計画したい。